

20061

当院での急変時の対応についての取り組み

¹医療法人名古屋澄心会 名古屋ハートセンター

金野 妃余子¹、宮田 さやか¹、浅井 優子¹

【はじめに】循環器専門病院で働くスタッフとして急変時に対応できる知識・技術の習得は必須である。今回、救急委員が中心となって行っている急変時の対応について、工夫・改善したことを報告する。【目的】これまでの取り組みについて評価・改善する。また今回行った急変時の対応についての取り組みを振り返ることで新たな問題点を明らかにする。院内全体で統一した急変時の対応ができるようにする。【方法】1, Cade Blue マニュアルの検討・シミュレーションの展開方法を整理する。2, BLS 講義内容の分析と参加スタッフのペアリングの工夫をする。BLS 講習後にテストを実施し、今後の講習プログラムに生かす。【結果】1, 外来スタッフ対象に Cade Blue シミュレーションを行った後に、告知なしシミュレーションを行った結果、2階外来で発見してから4階CCUへ移送するまでに3分30秒であった。2, 参加スタッフがBLSを実践できるようになったが、テストを行った結果、事務や清掃スタッフは正解率が低かった。【結論】マニュアル作成、シミュレーションを繰り返すことで急変時にスタッフが同じ方向性で統一した対応ができるようになった。しかし一度だけの経験では知識・技術が身につけにくいいため、繰り返し院内全体で急変時対応のレベルアップを目指していきたい。